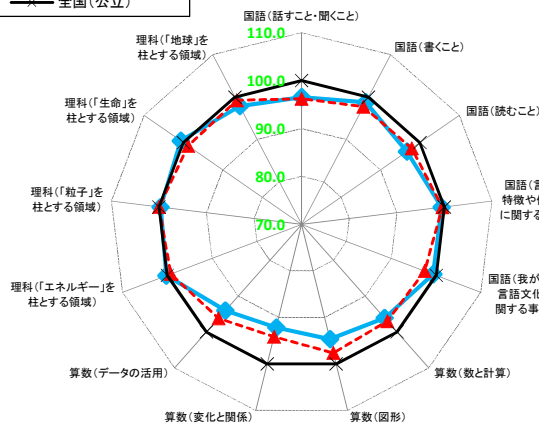
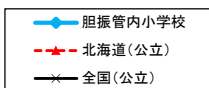


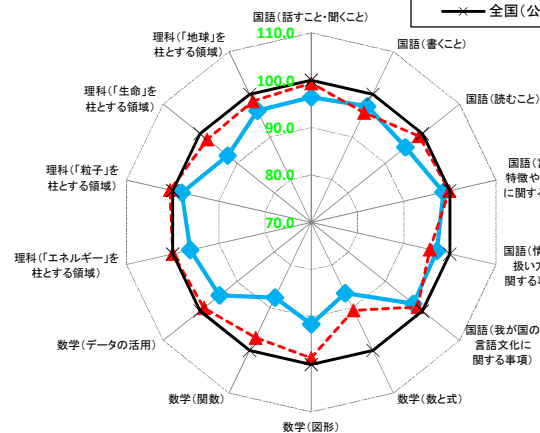
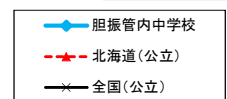
■胆振管内の状況及び学力向上策（小学校数:67校、児童数:2574人）（中学校数:42校、生徒数:2581人）

小学校【教科全体の状況】



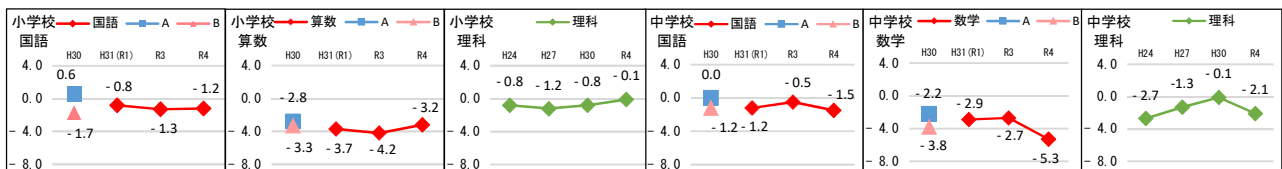
平均正答率	小学校国語	小学校算数	小学校理科	中学校国語	中学校数学	中学校理科
胆振管内	64[64.4]	60[60.0]	63[63.2]	68[67.5]	46[46.1]	47[47.2]
全国	66[65.6]	63[63.2]	63[63.3]	69[69.0]	51[51.4]	49[49.3]

中学校



教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの（管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

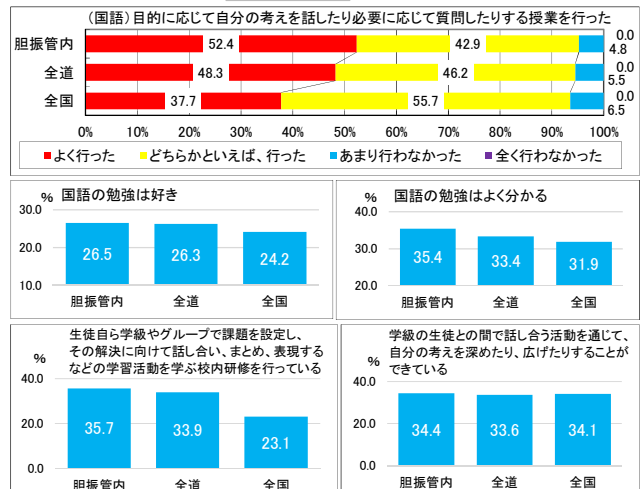
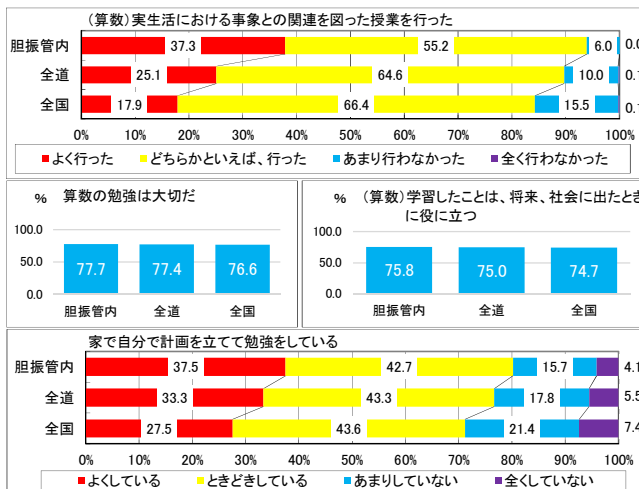
【平均正答率の推移】「管内の平均正答率－全国(公立)の平均正答率」の経年変化



【質問紙の状況】

小学校

中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

管内の多くの小学校において、算数科の授業で、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の勉強は大切だと回答する児童及び算数において学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

管内の多くの小学校において、家庭学習の手引を作成し、保護者と家庭学習の在り方について、共通理解を深めたことにより、家で自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

管内の多くの中学校において、国語科の授業で、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、国語の勉強は好きと回答する生徒及び国語の勉強はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

管内の多くの中学校において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行ったことにより、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできていると回答した生徒の割合が、全国を上回ったと考えられる。

【胆振管内の学力向上策】については、次ページの学力向上の取組を参照ください。

胆振管内における学力向上の取組

1. 管内課題と重点的な改善策

(1) 検証改善サイクルの確立

- 調査や各種データ等に基づいた教育課程の編成、実施、評価及び改善に課題が見られることから、検証改善サイクルの確立及び充実に努める必要がある。
- PDCAサイクル実施上の問題点を整理し、改善点を明確にする。
- 機動的かつ柔軟な対応ができる組織体制を確立し、改善の取組を継続する。
- 業務分担の工夫により、持続的なミドルリーダーの育成を組織的に行う。
- 効果的な検証改善サイクルの確立に向け、SMARTを意識した目標の設定を行う。

(2) 指導方法の改善・充実

- 教員が校外の研究会等に定期的・継続的に参加することができていない状況が見られることから、教員の資質向上の機会の充実及び授業改善の視点の明確化を図る必要がある。
- 主体的・対話的で深い学びに向けたＩＣＴ端末を活用した学習活動の充実を行う。
- 探究的な学習や体験活動の促進、発達の段階に配慮した全教科等における言語活動の実施を促す課題解決型の研究スタイルの推進を図る。
- 中学校区で連携した小中９年間で育成する力の明確化と小・中学校間の系統的な指導の浸透を図る。

2. 具体的な取組（◎：教育局、○：市町、●：学校）

	(1) 検証改善サイクルの確立	(2) 指導方法の工夫・改善
	全国学力・学習状況調査結果の活用（検証改善サイクルの見直し） 令和４年度全国学力・学習状況調査結果を踏まえた年度後半の取組の徹底	
9	◎市町教育委員会及び各学校への指導助言及び事例提供 ・義務教育指導監学校経営指導訪問 ・管内理事研修会における義務教育指導監及び教育支援課長からの指導助言 ◎各学校への指導助言及び事例提供 ・指導主事学校教育指導訪問の実施（５月～１２月）	◎研修会等による学校への指導 ・「いぶりWEB研修会（授業改善、研修の在り方、ICT端末・デジタル教科書の活用）」の取組 ◎小中連携に係る取組の推進 ・小中連携に係る指導資料の作成及び管内における好事例の普及 ◎いぶりICT端末活用事例共有事業による好事例の普及 ○●個別最適な学びと協働的な学びを実現する授業改善、ICTを活用した学習支援、デジタル教科書・教材等を活用した児童生徒の特性に応じたきめ細かな支援
10	第２回組織力強化会議（１０月４日）年度前半における推進状況の確認及び検証	
11		
12	◎各学校への指導助言及び事例提供 ・各学校との「いぶりoneシート」を活用したWeb面談の実施（１２月～２月）	◎各学校への指導助言及び事例提供 ◎いぶりWEB研修会等による学校への指導 ・授業改善研修会（仮）の実施
1	◎市町教育委員会及び各学校への指導助言及び事例提供 ・市町教育委員会訪問（後期）の実施（１～２月） ◎管内の学力向上に係る各学校の取組把握 ・学校教育指導訪問協議資料の集約（２回目）	◎市町教育委員会及び各学校への指導助言及び事例提供 ・市町教育委員会訪問（後期）の実施（１～２月） ◎管内の学力向上に係る各学校の取組把握 ・学力向上「いぶりoneシート」の集約（２回目）
2	●次年度の検証改善サイクルの確立及び継続に向けた取組の成果と課題、改善策の検討	●組織的な授業改善の推進、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた取組の成果と課題、改善策の検討
3	◎検証改善サイクルの確立に係る指導資料の作成及び普及	◎小中連携等、指導方法の工夫・改善に係る指導資料の作成及び普及

3. 取組の評価

(1) 検証改善サイクルの確立

- ①学校教育指導訪問協議資料（１２月末）において、「現状分析に基づく明確な学力向上の目標設定と市町及び中学校区による目標達成に向けた具体的な方策の推進」の項目で、十分と回答した小・中学校等の割合
- ・現状 小・・・79.7% 中・・・86.7%
 - ・目標 小・・・85% 中・・・90%

(2) 指導方法の工夫・改善

- ①学力向上「いぶりoneシート」において、焦点化した学力向上に向けた目標数値を達成した小・中学校等の割合（年度末）
- ・現状 小・中学校全体・・・39.1%
 - ・目標 小・中学校全体・・・70%

4. 改善点

(1) 検証改善サイクルの確立

- 第２回組織力強化会議を踏まえた各学校における令和４年度全国学力・学習状況調査の結果に基づく検証改善サイクルの確立

(2) 指導方法の工夫・改善

- 一人一台端末の日常的な活用に係る組織的な取組及び効果的な活用にに向けた授業改善